

令和5年度第2回公立大学評価委員会 議事録

【日 時】令和5年7月4日（火）10：00～12：00

【場 所】熊本県立大学 CPDホール

【議 題】（1）令和4年度（2022年度）業務実績等評価に係る法人（県立大学）からの自己評価説明
（2）公立大学法人熊本県立大学第3期中期目標の期間の終了時の検討について

【出席者】委員長 猪股 裕紀洋 氏 （独法）労働者健康安全機構 熊本労災病院 院長
委 員 池上 恭子 氏 熊本学園大学 商学部 教授
委 員 岩本 浩治 氏 熊本県議会 総務常任委員会 委員長
委 員 園田 舞 氏 公認会計士
委 員 中本 秀二 氏 （公財）地方経済総合研究所 常務理事

（法 人）理事長 白石 隆

学長 堤 裕昭、副学長 鈴木 元、事務局長 倉光 麻里子
事務局次長 加藤 栄一、他 関係課長

（事務局）総務部 総務私学局 局長 中村 誠希、

県政情報文書課 課長 坂本 久敏、審議員 福田 晶子、
〃 課長補佐 松岡 和美、主事 迫 佑樹

1 令和4年度（2022年度）業務実績等評価に係る法人（県立大学）からの自己評価説明

（1）事務局説明

資料1－1に基づき、事業年度に係る業務実績評価の概要について説明。
→意見なし。

（2）法人からの自己評価説明

資料1－2に基づき、法人から、令和4年度（2022年度）業務実績に係る自己評価について説明。

全体の概要：白石理事長から説明

詳細：堤学長から説明

（3）審議概要

① 計画番号6 英語教育について

（園田委員）

- 自己評価をBとされている。
- 伺っている印象としては、「本学の学生である以上、英語くらいは当たり前にできて欲しい。」「ここは、最低限超えて欲しい。」というラインとしてお考えだと思っているが、実際に入学する学生にこのことは伝わっているのか。
- 学生本人たちと、「当たり前を超えて欲しい。」と大学が求めているラインにズレはないか気になっている。

（法人：堤学長）

- 英語教育が非常に社会的に求められていて、大学としては色々なことに取り組んでいる。
- まず、受験生に対しては、オープンキャンパスや進路指導の先生方との説明会等様々な場面で、個別に可能な限り周知するようにしている。
- 特に、12月に2年生全員に対してTOEIC®の試験を行うので、あらかじめ周知している。
- 今年度入学した学生に対しては、新学期が始まってすぐに周知したところ、6月の受験者は131名となり、昨年と比べるとかなり多くなっている。前もって勉強しておこうという機運が高まってきている。

② 計画番号19 地域貢献に係る研究について

（園田委員）

- 自己評価がAになっており、この部分は社会的にも取り上げられ、最も注目されていたり、実際にされたことも影響が大きかったと認識をしているが、Sではなく敢えてAにしているのは、件数ベースで検証指標「99件以上」に対し110件だったことが関係しているのか。

（法人：堤学長）

- Sとして扱うのは相当なことで、我々としてそこまでは言えないのではないかと考えた。
- 地域課題に関わるのは我々のスローガンで、県立大学として基本中の基本の研究の部分なので、自己評価としては、このくらいでAが妥当と考えている。評価していただけるのはありがたい。

③ 計画番号40 入学者の確保について

（園田委員）

- お金に関わる部分ということで、今回一番気になったのが志願者の減。
- 評価委員会の評価（案）としては、「課題」としている。
- 検証指標は平均値なので、そこは超えているということで、自己評価はAにしていることと思うが、とても失礼な聞こえ方になるかもしれないが、結構なことが起きている。
- ここまでの影響について、どう分析されているか純粹に聞いてみたい。

（法人：堤学長）

- 確かに、受験者数は合計で500名減っている。近年にない現象。
- 九州内の傾向として、一部の大学を除いて、全体的に受験者数が減少している。
- 高校3年生や浪人生も含めて対象者がどこに行ってしまったのか不明な状況。
- コロナが収まってきたこともあり、関東・関西圏の方に、動いたのか、専門学校に行く学生が増えたのか。人口の減少で若者が減りつつあるが、それでは説明付かない現象で、理由を探しているところ。
- 専門学校のデータがなかなか出てこないのが、動向を把握しかねているが、減少傾向が九州全体で起きているので、これがどういうことなのか他大学とも情報交換しながら探っている。
- コロナの影響が減ってきたので、我々の大学の入試広報を強化して、オープンキャンパスも実地でできるようになる。そういったことを行い、来年度回復できるよう努力する。
- 志願者数が減れば競争倍率が下がるので、翌年度にリバウンドして戻ることもある。両方見ながら、とにかく受験者数の回復を目指しているところ。

④ 予算の確保・広報等について

（岩本委員）

- 70年熊本で生まれ育ち、初めて県立大学に入らせていただいた。正直言って素晴らしいと思った。

- 御説明があった「国際的な視野と認識を高める教育研究の推進」というのは、熊大や学園大、崇城大でもやっていると思うが、ここに来て、私に認識不足があったと思った。県議会議員という立場でいながら、認識不足があつて申し訳ない。
- 特に、「もやいすとグローバル育成プログラム」や大学院生対象の国際協力枠、公開講座等もされている。県として県立大学をどう進めていくか、どうやっていくのか、その中で資金の話があつたが、県立なので、私どもは頑張つて予算を確保していかなければいけないと思った。
- 先ほど、空調の設定温度は28℃と聞いた。県庁と変わらない温度設定。
- 教育を受ける学生、教育をする先生方にとって28℃設定が適当なのか。県庁本館に行くと、よくやられているなと思い、非常に心苦しく思うが、大学に対しても同じで良いか。教育を受ける学生、教える先生方の立場も考えていかなければならないのではないかと痛切に思った。
- 教職員の方々が一生懸命されている姿を見ると、予算はしっかり作っていかなければいけないと思う。
- 予算に基づいて、県立大学の方向性を明確にアピールしていくことが大事。先程少子化の話もあつたが、そういうことではなく、魅力のある大学を作っていくことが大事ではないかと思った。
- 機会があるときに、総務常任委員会の先生方も視察に来られたらいいと思う。
- （中期目標について）議会承認が必要なため、9月6日くらいに自民党部会で県立大学のあり方（※中期目標に関する内容）に関して議論する場を予定している。そういう中で（我々も）深く認識を持ち、県立大学がどう進めているか考えなければいけない。
- 自己評価についてももしっかり評価されていると思った。

（法人：倉光事務局長）

- お褒めの言葉とともに、広報も頑張つてほしい、もっとアピールすべきという叱咤激励と承った。
- まだまだアピール不足ということもある。学長も申し上げたとおり、本学は「地域に生き、世界に伸びる」というスローガンだが、「地域」というところはお褒めの言葉をいただいた。地域連携という点では歴史もある。
- 「世界に伸びる」というところは理事長・学長からも話があつたとおり、今まさに力を入れているところで、前面に打ち出していきたい。
- 冷房の設定について、機器も大変古く、老朽化しており、修繕しながらやっているところ。

- 学生から暑いという声があったら、それを調整するという形で日々対応している。
- 昨年度、サークル活動にもエアコンを入れるようにして、電気使用量が上がったのは4%だが、電気料金は30%上がり、金額にして1,800万円。他も節約をしながら凌いでいるという状況。
- 御指摘のとおり、学生の教育が一番なので、その環境についてはきちんと気を配りながらやっていきたい。

⑤ 計画番号6 英語教育について

（中本委員）

- TOEIC®の受験者数を増やすということで、来年度から2年生全員必須になるとのこと。
- 令和4年度は受験者が169名で、検証指標は485名。就職希望の方は400名程度いる。
- その中で、TOEIC®は年に2回受験機会があるとのことだが、169名という現状について、400名超え（に向けて受験するのは）1回でいいのか。
- また、海外留学用のTOEFL®を受けたら、TOEIC®を受けなくてもいいのではないかという考え方もあると思うが、1学年400名いる中で、TOEIC®の件数をどのくらい上げていこうと考えているのか。

（法人：堤学長）

- TOEIC®の受験は年に2回あるが、今年度に関しては6月だけで131名ということで、受験者数が増えている。
- 全員に対して実施するのは今年度12月から。それを合わせると600名くらいになる。
- 試験の運営は大学の教職員でやらなくてはいけない。その実施体制をまず1学年分作るというのが今年度の課題。
- できれば複数回やっていきたいが、大学の教育カリキュラムと試験の対応を考えて、更に受験者数を増やしていく方向で、実施体制の整備を図っていきたい。
- 学生の受験の準備体制もこれから作っていきたい。
- 学生には、頻繁に受験して自分の能力の向上を確認してほしい。
- TOEFL®は留学する学生が主に受けている。試験の中身が違うので、必要とする学生は両方受けていいと思っている。

（中本委員）

- TSMCとの関係で熊本も国際化が進み、外国人とのコミュニケーションが必要となる中で、重要な取組と思う。
- 県内就職者はかなり増加し、56%を超えており、素晴らしい取組だと思う。
- 県内の企業も外国語ができる学生を積極的に採用したいと思っているので、取組を続けていただきたい。

⑥ 計画番号18 学生の就職支援について

（中本委員）

- 就職する学生が会社に入って、かなり短い期間で退職するという、マッチングができていないような現象が起きている。この5月～7月に辞める学生が多いという企業の問題が発生している。
- 企業として人手が確保できない中、春夏の段階で辞めてしまうという問題を解消していくということがとても重要になるとしている。
- 大学の取組として、就職セミナーや企業説明会の参加ということで積極的に取り組んでおり、計画番号17のキャリアデザイン教育についてもかなり取組をされている。
- 就職をされる方が約400名いる中で、説明会やインターンシップへの参加者数が200名という水準は、就職される職種の問題でこのくらいの水準になっているのか。

（法人：倉光事務局長）

- 企業説明会等への参加の学生というのは大学で把握している部分はこれだけで、全体からすると半分に満たないので、決して高くはない数字と思う。
- 大学としては3年次の就職ガイダンスから始まり、合同企業セミナーの実施や個別企業説明会を開催しており、キャリアセンターには相談員もいる。可能な限り個人個人に丁寧にやっているところ。
- 入ってすぐ辞めるというのはミスマッチが起きているというところもあると思うので、コロナも明けてきて、できるだけ学生にはそういった機会を提供できるようにやっていきたい。

（中本委員）

- 今年からコロナも明けて、東京・大阪で大手企業が賃上げして、私どもの研究所では、東京・大阪に人を取られてしまうのではないかと心配している。県内企業が苦戦するのではと心配している。

- せっかく採用した学生が辞めない取組というのは、企業もやらなくてはいけないが、地元企業の魅力や地元企業で働くこととはどういうことか、というのはとても重要な取組と思っているので期待したい。

⑦ 計画番号4 地域の諸問題を題材とした教育について

（中本委員）

- 件数が155件ということで、とても多くの取組をされているのは本当に素晴らしい。「独自」、「着実」、「注目」と評価しているが、この項目ではないが、Appleの方がいらっしゃってテレビで放映されたこともあり、色々な国際的な方々と連携して大学の良い取組を発表されているのが素晴らしいと思っている。今後とも応援していきたい。

⑧ 計画番号6 英語教育について

（池上委員）

- 本学（熊本学園大学）も地域に根ざすということを掲げているが、県立大学の取組を拝見していると、全学的に教職員、学生もしっかり巻き込んで、着実に進めていると感じる。
- 私が一番気になったのは、受験者数の減少。本学とも共通する点もきっとあると思う。お互いにしっかり精査して、来年度は増やしましょう。
- TOEIC®やTOEFL®について、正規の英語の科目とどのような連携があるのか。
- また、本学（熊本学園大学）の場合、課外講座でTOEIC®やTOEFL®の講座があるが、勉強したい学生に向けた講座はあるか。

（法人：堤学長）

- 英語教育に関して、EnglishCentralという、学生がいつでも、自宅からでも受講できるe-learningシステムがある。学生全員にIDとパスを提供していて、どこからでも勉強できるという環境を作っている。
- その結果を評価して、英語の必修科目の成績の一部に20%を加味している。EnglishCentralで自習するということが前提となっている。

（法人：鈴木副学長）

- TOEIC®全員受験を今年度から実施ということで、これとは別に、各学部に合わせて必修英語の到達目標を設けている。

- 現時点において、TOEIC®と必ずしも全て連動するように各学部が目標が設定されているわけではない。必修として設けられている英語科目が全てTOEIC®で高得点を取るためのものにはなっていない。
- 学部ごとの英語の到達目標は、設定してから既に10年近く経っているので、新しい時代に合わせて、もう一度目標の設計をし直さなければならない段階に来ている。
- 現時点では、TOEIC®等の対策に関しては選択科目を受けられるようになっており、必ずしも必修にはなっていない。

⑨ 計画番号4、5 もやいすと育成プログラムについて

（池上委員）

- もやいすについて、着実に認定が進んでいる。「もやいすとスーパー」に加えて、「もやいすとシニアGlobal」も認定されていて、着実に進められていると思う。
- 目標値として、何名くらい認定するというのがあるのか。科目としてはジュニア育成の人数が多いので、もう少し輩出できるのかと考えた。

（法人：堤学長）

- 「もやいすとジュニア」は必修なので、1年生全員が受講する。地域課題を取り扱う、勉強するという意識付けを図っている。これは400数十名が受ける。
- その中からシニアに行く学生が20～30名。それから色々な科目を履修したり活動したりすることによって、スーパーに認定するのは、多くて年に3、4名。
- 特に目標値は示していないが、着実にスーパーに到達する学生を継続的に確保していくというのが目標と言えれば目標。
- 授業そのものは学生にとってはインパクトが大きい授業となっており、地域課題を教育研究する大学ということを通して、学生に対してインパクトを与えていると思う。
- 「もやいすとグローバル」の方は1年生の段階で、TOEIC®550点取らないとプログラムに参加できない。そこをまず目標として学生に勉強を頑張ってもらおう。
- 当初の予定は40名をもやいすとグローバルに参加させたいと目標にしていたが、20名弱で推移している。当初目標の40名くらいまで持っていかれたらと思う。

（池上委員）

- 非常に素晴らしい取組で先生方もかなり時間をかけていらっしゃるのので、少しでも多くの学生が参加してくれたらいいと思った。

⑩ 重点項目「国際的視野と認識を高める教育研究の推進」に係る取組について

（猪股委員長）

- 総括を伺って、この大学で定めたスローガン、推進項目に沿って、的を絞った有効な教育研究を進められていると感銘を受けた。
- 英語教育のことだが、アウトカムとしてTOEIC®、TOEFL®といった試験の達成度ということを設定されている。やはり英語が使えるということが最終目標と思う。
- 「国際的視野と認識を高める教育研究の推進」という中で、カンボジア、タイやフィリピン等、同世代も含めてコミュニケーションが必要になったということで、学生全体をencourageする重要な取組と思う。
- これについて、数的な部分で、より推進していくことができるか、難しいのか。
- 実際に学生が英語を使って分からせよう、分かりたいと思う環境が大事と思うので、授業外で、学内の留学生とのコミュニケーションやオンラインで相手を定めやり取りをするような、授業とは離れたもう少しフリーな環境を整えていくことなどの拡大性についてはいかがかお考えか。

（法人：堤学長）

- 国際対応について、他の公立大学とも意見交換をしているが、「予算が必要」とどここの大学も言っている。
- いかに予算を確保していくかということ視野に入れつつ、英語を実際に使う場を持たせないと学生もなかなか自分の立ち位置も確認できないということもあり、小さなことの積み重ねだが、できる限り、学生が外国の方と接触して自分を活かしていく場が増えていくのではないかと思う。
- 一つ一つは10人くらいが参加するような取組が多いが、大学の予算の中でできるだけ増やしていこうと努力しているところ。

（猪股委員長）

- JICAとコラボレーションがあるということ伺っていたが、私自身、Japan Heartでミャンマーやラオスに行ってきたところ。
- 言葉は悪いが、「人の禪で動く」というのも探していくと結構たくさんあると思うので、お金を使わずに目的を遂げるということも探さないといけないのではないか。

⑪ 計画番号40 入学者の確保（選抜方法）について

（猪股委員長）

- 志願者数の減少のことで、（一般選抜の）志願者数は令和5年度が1,417人になり、500名ほど減った。
- 明確な理由は分かりにくいと思うが、入試の区分ごとの中身（志願者数）を見ると一般選抜は減っているが、自己推薦型と特別選抜は増えている。
- 選抜の方法によっては変わりようがないかもしれないが、選抜方法について、来年度には間に合わないだろうが、これから考えていることはあるか。

（法人：堤学長）

- 全体的な傾向として、入試の結果を受験者は早く決めたいという傾向がある。
- 一般選抜も後期より前期、チャンスがあればAOや学校推薦で決めてしまおうと考えている。国立大学もそういう傾向がある。倍率が高く見えるという効果も狙っているのではないかと考えている。
- 私立に先に決めてしまっていて、国公立は受けないという、早め早めの結果を求める傾向があり、それに対して我々も自己推薦や特別選抜を用意しているが、それを上回るくらい周りも動きつつあるというのは把握している。
- 我々がどう対応していくかということだが、一般選抜を中心に、それより前に実施される特別選抜の割合を決めているので、状況に応じてその割合を変えることも考えなければいけないと状況を見定めているところ。

⑫ 県内出身者数について

（猪股委員長）

- 県内出身者8割という現状は大学が目指すものなのか。それとも、より多様に他の地域から入ってくるのも拒まないという状況なのか、大学としてのスタンスはどうか。

（法人：堤学長）

- 学科・専攻によっては県外比率が高いところもあるが、県立大学なので、まずある程度の県内の高校生を大学に迎え入れて教育するというのが大きなテーマで、そこを基本としている。

⑬ 計画番号4、5 もやいすと育成プログラムについて

（猪股委員長）

- 「もやいすと」に関しては謙虚にAにされていると感じたが、これくらいであればSでいいというレベルは大学としてはどう考えているか。

（法人：堤学長）

- 「もやいすと」に関して、ジュニアは全員必修というのは「地域に生き、世界に伸びる」というスローガンの中で重要な部分なので当たり前。
- シニア、スーパーと進んでいく学生が計画時より少ないという印象。そこが増えて数十名ということになれば、ある程度評価できると考えている。
- グローバルについては、スタートしてそれほど経っておらず、カリキュラムも他の専門科目と重なっていて受講しづらいというものもあるのが現状。
- TOEIC®550点取らなければいけないという関門を通過できる学生が増えれば、参加する学生も増えていくと思うので、もう少し増えると評価できると思っている。

⑭ 計画番号40 入学者の確保（県立大学に対するイメージ）について

（園田委員）

- 志願者減について、完全に私の妄想、空想でしかない話だが、一つ思い当たるのは、全体的な傾向やコロナの状況もあるかと思うが、特定のゴシップや、県立大学に対する偏ったイメージが付いているという可能性も有り得なくはないと思う。
- そういった偏ったイメージが付いているとしたら、対応しやすいといえればしやすいと思うので、そういった可能性も見てみられてもいいのではと個人的に思った。

（法人：白石理事長）

- そういうものは全くないと考える。
- むしろこの3年くらいではっきりしたことは、緑の流域治水等を推進し、本学は公立大学で唯一の地域中核大学になっており、（今年、）AppleのYoung Developerも本学の学部3年生2名が認定された。
- パフォーマンスからすると、私は心配することはないと思っている。ただし、不祥事については厳正に対応する必要がある。

- 受験生の問題は、私も非常に心配している。全体的に減っていて、その中でそもそも学生は減っていくし競争が厳しくなる中で、何をすればいいのかということ、今考えなければいけない。
- この5年間で、県教委とは教育協定を結び、DXについては、公立大学では全国トップと思っている。
- そういうものをベースとして、私としては、もっとアメリカ式の、入学試験のないアドミッションシステムに大きく移行することも十分考えてもいいのではないかと、それをもって新しい大学に向かっていったいいのではないかと、個人的には考えている。
- こういうことは、大学の教員と事務の皆さんがある程度合意ができないと、上の方で旗振っただけでは何も起こらない。
- そういうことも含めて、執行部の皆さんと相談しながら進めていきたいと考えている。

（法人：堤学長）

- 教育カリキュラムとして考えなければならないこともある。より魅力的な教育カリキュラムを常に新しいものにして保っていくということが重要。
- そういう意味で総合管理学部では専攻制にして、そこに情報専攻が存在することを強くアピールする。
- その他の学部学科についても、受験して入ってくる学生に対してより魅力的なものに作り上げていくことで、常に見直しを行うということは考えている。

（猪股委員長）

- 理事長からとても夢のある話も伺った。
- 私も一人の県民として、県立大学が悪い話で上がっているのは見たことがない。むしろ、メディアに出てくる時はすごいなと思わせることで出ているので、評判が上がっていいのではないかとと思っている。
- その点で、アピールをもっとしていただいた方がいいと感じた。

2 公立大学法人熊本県立大学第3期中期目標の期間の終了時の検討について

（1）事務局説明

資料2に基づき、第3期中期目標の期間の終了時の検討の進め方等について説明。

→意見なし。了承。

3 令和5年度スケジュールについて

（1）事務局説明

資料3に基づき、令和5年度のスケジュールについて説明。

以上